

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600537		
法人名	社会福祉人希望の里		
事業所名	グループホームむつみ		
所在地	苫小牧市字樽前159-198		
自己評価作成日	平成23年10月27日	評価結果市町村受理日	平成24年5月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL <http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173600>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成 24年 3月 22日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた土地である苫小牧において、穏やかに生活を送っていただけるようにしています。自然に恵まれた環境であることから、日々静かな環境の中で周辺を散策したり畑を作り花を植えたりと、季節を感じていただけるよう工夫を行っています。お一人お一人の思いを大事にし、健やかな生活を過ごしていただけることを目標にスタッフ一同取り組んでいます。建物については皆様にくつろいでいただけるよう畳の間を設けています。また、トイレを複数箇所ご用意し、身体的なケアが必要な方も安心してご利用いただけるよう広めのトイレを設けています。ご家族や知人とゆっくり過ごしていただけるよう近隣にゲストハウスを設け、宿泊についても対応可能です。入居者様のみならずご家族様にも安心していただけるよう今後も工夫を行って行きたいと思っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームむつみは、障害者の支援を行ってきた社会福祉法人が、地元の高齢者に法人として培ってきた福祉の知識と技術を還元したいという思いから開設されました。豊かな四季を感じられる自然に恵まれた場所に位置し、安全に配慮した鉄筋コンクリート造りの建物は、高齢者に安全に豊かに暮らしてほしいという開設時の思いが随所に込められています。近隣の同法人のもう一つのホームとともに、地域の中で利用者を支える取り組みを続けています。防災の取り組みも法人をあげて行い、津波や噴火などの広域的な避難を要する場合の想定などにも取り組んでいます。ホームでは、健康で、ぬくもりのある生活を実現するため、職員がゆったりとケアに取り組める環境を作っています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内への掲示のほか、名札内に入れ携帯している。	ホームの居間に理念を掲げています。また、より日常的なケアの場面で、実践しやすいように記述した理念を、職員が名札の裏に携帯しています。年度当初に職員と共に振り返る機会をもち、ぬくもりや温かさを大切にされたケアに取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣施設との連携を行っている。	法人の所有する広い敷地に、同法人が運営する福祉施設に隣接したホームでは、他施設の利用者との挨拶や一緒にの作業、おすそ分けなどの交流を行っています。また介護資格の実習受け入れなども行っています。	地域交流という点において、ホームの地理的な不利はありますが、地域住民だけをその対象として捉えるのではなく、様々な社会資源を、利用者が地域で生活するための要素として活用していくことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方にも気軽に相談いただけるような雰囲気作りを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内容をスタッフ会議にて各スタッフへ伝え、ケアの向上を心がけている。	運営推進会議は概ね2ヵ月毎に行われています。市介護福祉課や包括支援センター、家族代表等が参加しています。防災関連の話題や介護保険の改正などの議題が取り上げられています。議事録はホームに備え付け、閲覧できるようにしています。	運営推進会議の参加者が固定化されています。参加者の拡大のための取り組みと、どのような話題が取り上げられたのかなどを家族に知らせ、ホームの理解を促し、参加できない家族からの意見を汲みとる工夫を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	その都度相談・連絡を行う体制を構築している。	適切な運営を行うために、市と相談しながら、ホームの人員配置や各種手続きを行っています。また、事故の報告や利用者の介護認定調査、生活保護受給者など、それぞれの利用者に必要な連絡と支援の取り組みを行政と協力しながら行っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修にて実施しているほか日々の中においてスタッフ間にてその都度話し合う場を設けている。	年1回、内部研修を行っています。参加できない職員は資料を確認し、身体拘束について理解を深めています。日々行っているケアを利用者の立場に立つて、職員同士が話し合っています。玄関は自動ドアになっていますが、夜間のみ防犯のために施錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にて実施しているほか日々の中においてスタッフ間にてその都度話し合う場を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や会議の場を通じて共有できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度ご説明を行い確認をいただいているほか随時のご相談にも対応できる体制を構築している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加いただき機会を設けている。またその内容において各スタッフ間にて会議などの場を通話し合いケアの向上に努めている。	3ヵ月毎にホームの機関紙を発行し、利用者の写真や、担当職員から利用者の様子を記載したお手紙も送付しています。電話による随時の連絡も行い、利用者の様子を伝えることで意向を汲みとるようにしています。家族等が利用できるよう相談苦情箱を設置し、FAX、メール、電話など、24時間体制で相談を受けています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やその他の場においても会話の機会を多く持つようにしている。	職員からの提案でホームの行事を立案しています。職員の希望する働き方やシフトへの希望なども、できるだけ反映するようにしています。また、職員に対して有給休暇の取得を勧めるなど、職員が働きやすい職場作りに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適宜状況に合わせて行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修をはじめ状況に合わせて外部研修への参加を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム連絡会への参加を行っている。また他グループホームと相談・確認できる体制を構築している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前での面接や情報提供を通し、入居時の不安を和らげることが出来るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前での面接や情報提供を通し、入居時の不安を和らげることが出来るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接や他サービス事業者からの情報提供の依頼を行い状況の確認を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	良い関係を構築できるようユニットケアの特長を生かした個別のケアを実施している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	その都度相談や確認をさせてもらいながらご本人が安心して生活できる環境を提供できるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活暦を確認させていただき、通いなれた店舗や場所へのご案内を行っている。またその都度ご来訪の依頼を実施している。	利用者の馴染みの店に買い物に出掛けたりしています。利用者の知人などに、お歳暮を贈りたいという希望には、職員と一緒に品物を選びに出かけ、それまでの付き合いが継続できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活や活動を通して交流の機会を設け、ともに生活を送っていただける関係の構築を目標としている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	問い合わせがあった際にはその都度相談していただける体制を構築している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族との会話の中で把握できるようにしている。	利用者の日々の様子や希望などを、職員がきめ細かく共有しています。また、そこから得られた情報を、利用者の日々の支援に活かすようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様からお話を伺うほか他サービス事業者よりの情報提供をいただき、これまでの生活歴を重視させていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録を記載するほかスタッフ間にてその都度情報交換を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その都度スタッフ間にて話し合いを行い介護計画の作成を行っているほかご本人やご家族への確認を実施している。	3ヵ月毎に介護計画を見直しています。計画の実行状況などをモニタリング表に記載し、職員が意見を持ち寄り、担当者会議を行っています。利用者の「できること」に着目した計画を作成し、自立や、生きがいを感じて頂けるような計画を作成しています。	現在介護計画を効果的に実施し、必要な内容を的確に記録していくため、書式の検討をしています。これにより、職員の日々のケアからの気づきを共有し、利用者の個別性を大切にした支援が、実現できる仕組みが強化されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を工夫し行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度状況に合わせたサービスの提供を実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園へ出かけたり市内での行事に参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前よりかかられている主治医との関係を重視しご本人様やご家族様の希望に応じた受診を実施している。	利用者の希望するかかりつけ医の通院支援を行っています。利用者の様子を医師に伝え、結果を家族に伝えていきます。家族への連絡は、あらかじめ方法などについても意向を確認し、適切に行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	相互協力体制を構築しているほか入院時においてもご担当者様との連絡を密に取るようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご説明を行っている。またその方に合わせた対応を行うことができるよう状況に合わせ支援に取り組んでいる。	入居時に「重度化した場合の対応に係る指針」の中の看取りに触れ、ホームの方針を説明したうえで、家族の意向を確認しています。家族の意向も利用者の状況によって変化していくことを理解し、その時々々の気持ちを共有できるように取り組んでいます。	ホームとして看取りの経験はまだありません。ホームでは家族の意向を尊重し、希望を叶えるための取り組みについて検討しています。利用者が個別に希望する医師との協力体制の構築など、きめ細かな準備を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しているほか救命救急講習を実施している。(法人内にて)		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣施設との連携や運営推進会議において地域への協力体制の依頼を行っている。	年2回の避難訓練を行っています。夜間想定訓練を、職員がまんべんなく経験できるよう配慮しています。また法人として、年2回の救急救命講習やAEDの設置、備蓄品など、非常時の想定に法人全体で取り組んでいます。	ホームでは、火災以外で想定される地理的な自然災害がいくつかあるため、それぞれに応じた避難のシミュレーションが期待されます。災害種別と利用者の状況や季節や時間帯、家族との予めの情報共有など、関係機関との協力も期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の尊厳を重視し対応を心がけているほかスタッフ間にてその都度確認を行うようにしている。	利用者の生き方や習慣の継続なども大切にしています。一人ひとり尊厳を守るための支援方法を検討し、能力を活用し、生きがいを持って生活できるようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人にその都度確認を行いそれに添った対応を心がけているほか、自己決定が困難な方についてもご家族に相談を行ったりその方の意向を理解する事ができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のペースやリズムを重視しその方にあった生活を送っていただけるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品や衣類の選択など、お一人お一人にあったおしゃれを楽しんでいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その都度お手伝いをいただいている。	利用者のリクエストを取り入れながら、栄養士が立てた献立を提供しています。畑で収穫した野菜や、時には回転ずしに出掛けるなど、変化を付けた食事になっています。車いすから椅子に移って、ゆったり食事をして頂くなど工夫をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医への相談のもとその方の健康状態・嚥下状態にあった食事を提供させていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その都度確認させていただきほかご自分にて行えない方についてはケアをさせていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の残存能力に併せ対応させていただいている。	病院からの入居など、入居時におむつの使用であった場合でも、トイレでの自然な排泄の可能性を排除せず、支援を行っています。さりげないトイレへの誘導など、利用者の様子を察知しながら、自尊心に配慮して行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取や食材・調理の工夫を実施しているほか状況に応じ主治医への相談を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は定まっているが、適宜状況や希望に合わせて入浴していただけるようにしている。	週3回、午後の時間帯に入浴を行っています。1階には個浴が2カ所、2階に1カ所の風呂があります。利用者の力量に合わせて、見守りや職員2名での介助など、無理なく安全に入浴できるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人のペースに合わせて生活していただけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々の健康状態のチェックのほかその都度主治医への確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	画一的な生活にならないようお一人お一人のスタイルを重視している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて外出できるよう配慮を行っている。	気候の良い時期は、散歩や玄関前のベンチの活用など、ちょっとした機会に外出したり、外気浴ができるようにしています。通院、買い物やドライブなどの個別での外出を行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その都度お手伝い等配慮をさせていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じていただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾り付けを行うなど穏かに過ごしていただけるよう配慮している。	中庭を囲む形で明るい光のあふれた回廊があります。トイレや風呂の数が多く、広々とした造りになっています。バリアフリーの造りになっており、畳が敷かれた和風のコーナーや、植物、季節の飾りなどがあります。居間には、利用者みんなが囲めるテーブルがあり、好きな書き物をしたり、ソファのあるスペースでゆったりと、思い思いに過ごせるよう工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに食卓やソファを置きそれぞれにおくつろぎいただけるようにしている。また和室をご用意している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット・テレビ・カーテンなどは備え付けのものをご利用いただけるほか馴染みの家具や日用品などもご利用いただけるようにしている。	居室には、ベランダ、ベッドとテレビ、箆箆と洗面台があり、ドアには鍵がついています。思い出の品物や、植物などがあり、それぞれの部屋が整えられています。また、新聞の購読や、仏壇等への毎日のお水のお供えなどの支援も行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	角にトイレを設置したりホール廊下を回廊式にしたりするなど工夫してある。		